嘉麻市社協だより

えがお

発行日/ 2015.3.1　No. 109

社会福祉法人 嘉麻市社会福祉協議会
〒820-0205 嘉麻市岩崎 1143 番地 3　稲築住民センター内
TEL.0948-42-0751　http://kama.syakyo.com
FAX.0948-83-8005　info@kama.syakyo.com
https://www.facebook.com/kama.swc

10年間ありがとう、そしてこれからもよろしくの気持ちを伝えました

稲築東小学校4年生　二分の一成人式

若者たちの生きづらさを一緒に考える

ひきこもり勉強会

1月28日(水)、寄ってこハウスでひきこもり勉強会を開催しました。

講師には、NPO法人ちくほう共学舎「虫の家」事務局長の髙石伸人さんをお迎えし、「分からないことの豊かさ」についてお話を伺いました。

髙石さんが出会って来られた、たくさんの方たちの話をつうじて、周囲のまなざしがどうだったのか、その方たちからみた社会はどうなのかと問いかけられました。地域の中で当たり前に生きることが許されない社会を耕(たがや)していくことが大切との言葉には、みなさん深くうなずかれていました。

また、若者の生きづらさについても話され、コミュニケーション力を異常に求める社会のおかしさや周囲が押し付ける価値観に苦しんでいる方が多いと指摘されました。

今回の参加者の中には、ひきこもりに悩んでおられる方も真剣に話を聞かれるなど、一緒にいろいろなことを考えることができた勉強会になりました。

親の会が現在の思いを語る

久山町社協がフリースペースを視察

1月30日(金)、久山町社協役職員9名が、本会のフリースペースの視察に来られました。まずは、事務局から、本会のひきこもり支援事業を始めたきっかけやフリースペースでの活動内容について説明をしました。事業に携わる中で感じることとして、「社会に出る準備ができていないのに無理に押し出す必要はないこと」や「社協としての立ち位置は当事者支援であり、本人が望む暮らしを一緒に考えていきたいこと」を伝えました。

その後は、ひきこもり親の会「つながり」のみなさんから、会を立ち上げた経緯やフリースペースの運営について話をしていただきました。

「フリースペースに来るようになって、子どもの変化を感じている。」「親にとっても心が安らぐ場となっている。」ことなど、居場所があることの大切さを語りました。

また、ひきこもりに対する周囲のまなざしや本人の辛さなど家族にしかわからない思いを伝えられ、「ぜひこの問題を一緒に考えてもらいたい」と涙ながらに話す場面もありました。

久山町社協の久芳正司会長からは、「ご家族の思いを伺い、ひきこもり支援を社協がする意味を理解することができました」とのお礼の言葉がありました。

成年後見制度 Q and A

Q. 浪費を繰り返す人は、成年後見制度を利用できますか？

A. 利用できません。成年後見制度は、認知症や知的障がい、精神障がいで判断能力が不十分になられた方々の社会生活を支援するものです。浪費を繰り返すだけでは、成年後見制度を利用することはできません。

浪費のことで、お悩みの方は、収支計画の見直しなどのご相談に応じますので、嘉麻市社会福祉協議会までお問い合わせ下さい。

今、なぜ伴走型支援が必要なのか

飯塚市・嘉麻市・桂川町社協公開講演会

1月30日(金)、桂川町住民センターで、飯塚市・嘉麻市・桂川町社協主催による公開講演会を開催し、NPO法人抱樸理事長の奥田知志さんから、『今、なぜ伴走型支援が必要なのか～生活困窮支援者の現場から～』というテーマでお話を伺いました。

奥田さんは、高齢者世帯や母子世帯、保護世帯がこの10年間で3倍も増加したこと、地域の中でつながりがなく最低限度の生活を送っている「見えない貧困」が多いという背景があり、生活困窮者自立支援制度が制定されたことを説明されました。この制度は、社会保障制度から外れてしまう現役で働く人が対象になるということを強調されました。

また、ホームレス状態にある人、生活に困窮している人をそのまま受け止めて受け入れる「抱樸館」を立ち上げられたことやそこで関わられている方、関わりの中で感じておられること等のお話がありました。そのなかで、まず目の前の困っている人(対個人)に向き合い支援することが大切であるが、同時に、生活困窮者を生まない社会を創造しなくてはならないということを学びました。(対社会)

人が働く時に、誰のために働くのかということはとても大切なことで、経済的困窮と社会的孤立は深く結びついているという話から、人とのつながり、『人』の大切さを改めて感じ、この制度で何をしなければならないかを考えることができました。

地域で支えあえる仕組みづくりに向けて

□春行政区

□春行政区では、「お助け隊(仮称)」という、地域の中での支えあいの活動を始めるための検討をしています。

きっかけは、ゴミ出しができないという、一人暮らし高齢者の方からの相談でした。そこで、□春地域福祉部の皆さんに集まっていただき、話し合いを行ったところ、「これは他人事ではなく、いずれ自分にもおこる事柄」、「助け合える関係を地域の中に作っていけないか」といった意見が出たことで、ゴミ出しの支援を行いながら、地域の支えあいの活動について協議を進めていくことになりました。

1月25日(日)には、役員会で活動内容について協議し、お互いに「ありがとう」と言って終われるような取り組みにしていくことが決まりました。

「地域の中には、いろいろな技術や特技を持った方もいるので、協力してもらうためにどのような働きかけをしていくのか」「協力者が安心して活動するために保険の加入はどうするのか」「運営する事務局の体制はどうするのか」など実施に向けた多くの課題が出されました。

これから、新年度からの実施に向けて、打ち合わせ、話し合いを重ねていきます。

ワークライフバランスが大切

2月1日(日)、職場における心の健康づくりの基礎を学ぶために、職員向けのメンタルヘルス研修を実施しました。また、共に学ぶことができたらと市内の社会福祉施設にも呼びかけると、2施設が参加されました。

講師には、福岡産業保健総合支援センターのメンタルヘルス対策促進員 内田チグサさんを迎え、心の健康づくりの大切さについて、お話いただきました。

まずは、厚生労働省の資料を基に労働者の健康状況やストレスの現状について説明があり、労働者の約6割に強いストレスがあることを知りました。

また、日常生活問診票でストレスチェックを行い、自分が抱えているストレスがどのくらいなのかを把握しました。ストレス対策としては、まず、良い生活習慣を身につけることだそうで、ブレスロー博士の7つの健康習慣を学びました。また、自分自身でできること、職場でできることについても知識を深めることができた研修会となりました。

寄稿　「他者の苦しみに共感するということ」

「遠い人々の生きにくさが、私たちの生きやすさとつながっている。」

（栗原　彬）

他者の言葉を聴くという行為は決して容易ではありません。自分の心や体が他者に対して開かれていて、同時に相手の言葉が自分の蓄積された経験や知識の層、あるいは感性（想像力）のアンテナに届かないと、目の前で話されていたのに、聴こえていなかったということになります。別の角度から、長く南アフリカの人種差別問題に関わってきた楠原彰さんは、「人は普段、自分もまた何らかの当事者だと気づいていない」とも語っています。私たちは日常生活の中で、しばしば気楽に「相手の立場に立つ」とか、「身になって」などという言葉を使いますが、どうもそう簡単なことではないように思われます。

もう一人、ボクの尊敬する知人に緒方正人という人がいます。熊本の芦北町に住んでいて、彼は水俣病の患者さんです。水俣病と一口に言っても、医学としての水俣病から補償制度や環境倫理、コミュニティの分断や差別、教育や社会福祉、宗教やマスコミの責任、さらに、近代化とは何か、人間とは何者か、といった哲学的な問いまでを射程に含む課題であり続けています。

しかし、加害企業チッソと行政が犯罪隠しと責任逃れに終始して、初期段階での実態調査を怠ったことも手伝って、来年で公式確認から六十年になるにもかかわらず、今も問いは宙釣りのままで、解決には至っていません。一般的に水俣病は、チッソ水俣工場が垂れ流した毒水が海の生き物たちを侵し、その魚貝類を食べた人間が有機（メチル）水銀中毒になった公害病であると説明されます。従ってボクたちの多くは、それを南九州の水俣という一地域で起きた四大公害の一つという程度に記憶し、自分の生活と繋げて考えることはまずありません。先の楠原さんの指摘に重ねると、ボクたちは当事者ではないと決め込み、水俣の人々の痛苦や自然破壊の傷跡など、テレビの一シーンのように見過ごすだけで、共感の対象として身に迫ってくることはありません。

急性劇症型水俣病で父親を奪われた緒方さんは、チッソを「親の仇」と見定め、患者運動のリーダーとして闘争の最前線に身を置き続けました。しかし、その渦中で彼の「魂」は、亡くなった父の呼び声に震え、のたうつのです。やがて彼の口から零れてきたのが、「チッソはもう一人の私であった」という言葉でした。つまり、チッソの犯罪は許せないけれど、もし自分がチッソの中で働いていたら同じことをしないと言い切れるだろうか。そして気がつけば、自分の暮らしがチッソの作った快適で便利な製品に囲まれていたと言うのです。つまり現代社会では、すべてのボクたちの生活が「チッソ型社会」の中に逃れがたく組み込まれていることを、深い慚愧の念とともに告発したのでした。

ひるがえって、今日の日本の経済的繁栄を支えてきた原理が「多くの人々の幸せを築くためには、少数の犠牲は止むを得ない」というものでした。既に四年になる3・11の東日本大震災とそれに続く東京電力福島第一原子力発電所の事故は、東北が「国内植民地」であったことを、もっと率直に、ボクたちの安楽な暮らしが、福島や東北、沖縄や水俣の人々の犠牲の上に築かれてきたこと。加えて、その被害民の中にも、差別構造の形成者として、「自発的服従」を強いられる人々がいるという状況を炙り出しました。緒方さんが看破したように、国策企業チッソによって苦渋の日々を背負わされる被害当事者がいて、他方に（実は地続きに）、犯罪行為を非難しつつ、チッソ製品のプラスチックや液晶を使って便利な暮らしを享受している、他人事のボクたちが存在するという構図が見えてきます。

そんな「犠牲のシステム」からどうすれば「プラグを抜く」ことができるか？　ボクは、冒頭の栗原さんの問いを反芻しつつ、他者の苦い声に耳を澄ますところから、などと呟いているのです。ところで、あなたは日々を生きにくいと感じますか、それとも・・・？

高石 伸人さん
プロフィール

NPO法人 ちくほう共学舎「虫の家」事務局長。九州龍谷短期大学及び筑紫女学園大学非常勤講師。1949年生まれ。大学卒業後、（社福）直方市社会福祉協議会ソーシャルワーカーを経て、1997年から2008年3月まで九州龍谷短期大学教授。かたわら1986年から自宅敷地内で、障害者地域活動センター「虫の家」を共同運営。その一角に2008年から「杉野ハンセン病資料室」を開設した。著書に、『水俣50年ーひろがる「水俣」への思い』（作品社、共著）、『「新優生学」時代の生老病死』（現代書館、共著）など、論文に「証言：〈らい予防法〉を生きて」「閉塞する死～『商品化社会』の精神に関する一考察」他がある。福岡県小竹町在住。

本会では、日々の活動を紹介したり、いろいろな福祉情報を素早くお届けしたいという思いで、ホームページで、日記『嘉麻市社協のブログ』を書いています。そこから抜粋してきた記事をご紹介します。ぜひご覧ください。**嘉麻市社協のブログ　http://kamasyakyo.chobi.net/wordpress/**

2015年1月29日

先日、中益地区の方から「うちの地域でもサロンをやってみたいなぁと思っていて、」とご連絡をいただき、今日は有志のみなさんの話し合いに私も参加させていただきました。

サロンの目的や進め方を話し、他の地区のことも少し紹介すると、「いいねぇ」「やっぱり今は一人暮らしでデイサービスの回数が減ったという人もよく聞くし、集まる場所があったらいいよね」など、みなさんとても積極的に考えていらっしゃいました。今から地域のみなさんに声をかけ、少しずつ始められるようにしていくことになりました。

話し合いの後は、メンバーの方が手作りをされたサイコロの面の絵柄を合わせるゲームで盛り上がりました。作り方も教えていただきましたが、簡単にできます。時間をかけてきれいに絵を描かれていて、楽しくなる遊びです。

中益でサロンが始まったら、こんな頭の体操も少ししたらいいね♪と話されていました。

2015年2月15日

鴨生北町サロンで、花の寄せ植えが行われました。用意されたたくさんの花の中から、自分の好みのものを4つ選んで、鉢の中に配置していきました。

参加者の中には「この前テレビでは、どこから見ても見かけがいいようにするのがポイントって言いよったけど、なかなか難しいね。」と何度もやり直している方もいらっしゃいました。作業に取り掛かってからおよそ40分後、みなさんの個性豊かな作品が完成しました。できた作品は、自宅に持ち帰って、育てられるそうで、「枯らさんように頑張って水遣りせなね」と話されていました。

今月のえがお

最近えがおになった出来事を教えてください！

孫と遊んでいる時や6匹の犬の世話をしていると笑顔になります。

福永（ふくなが）　美津子（みつこ）さん

笑いを基本に、「いつも楽しく！元気に！」をモットーにしています。

下原（しもはら）　英子（ひでこ）さん

「読めば答えが見つかるかも」社協だよりクイズ

「広報紙えがお」を読んで、次のクイズにお答えください。正解者の中から抽選で2名の方に、図書券（千円分）をプレゼントいたします。

問題

高校生災害ボランティアサポーター養成研修会の午後から皆で考えを出し合ったテーマは何でしょうか？

(1)『命を守る』(2)『避難所生活と支援』(3)『暮らしを支える』

● **応募方法**　①クイズの答え、②広報紙の感想、③郵便番号・住所、④氏名、⑤年齢、⑥電話番号をご記入の上、3月31日（必着）までにハガキ、またはEメールにてご応募ください。

● **送付先**　〒820-0205
嘉麻市岩崎1143番地3
嘉麻市社会福祉協議会
E-mail:tiki@kama.syakyo.com

● **前号のクイズの答え**　（1）
日中一時支援事業所クリスマス会で、スタッフが作った料理は、シチューでした。

応募のあった方から社協だよりの感想をいただきましたので、紹介します。

・退職をきっかけに久しぶりに地元へ戻り、ゆっくりと拝見しました。今まで気に止めなかった地元の情報を知ると共に、筑豊も昔ながらの文化が残る暖かい土地なんだなあと改めて思いました。これからも、地域の情報や素敵な記事を楽しみにしています。

・孫の学校では餅つきなどなく、なかなかする機会がないので熊ヶ畑小学校は昔を思い出すとても素敵な小学校ですね♪

※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

かま ボランティア 市民活動センター情報

若者世代のサポーターと共に

1月18日、稲築住民センターで、平成26年度高校生災害ボランティアサポーター養成研修会を開催しました。稲築志耕館高校、嘉穂高校、嘉穂東高校の生徒のほか、福祉推進員、かまボランティア・市民活動センター運営委員、本会職員など42名が参加しました。

にいがた災害ボランティアネットワーク事務局長の李仁鉄（りじんてつ）さんを講師に迎え、午前中は『災害救援の全体像』について講義がありました。初めに、丸20年過ぎた阪神淡路大震災の映像が流され、私たちは災害と隣り合わせであることが伝えられました。災害ボランティアには「命を守る」「暮らしを支える」という大切なポイントがあること、ボランティアにはつなぐ、支える、支える人を支える役割があることを学び、地域で暮らしているからこそできること、高校生だからこそできることなど、みんなの力が必要だということを感じました。

午後からは、グループワークで『避難所生活と支援』について考えました。避難所（体育館）の生活で起こる様々な問題について、どんな対応ができるかをグループごとに話し合いました。

例えば、「車いすを使っている人が避難所にいます。どんな配慮ができるでしょうか？」というケースでは、各グループから、「通路側に場所をとり、できるだけ動きやすくする」「ヘルパーを探す」という意見が出ました。高校生は、「学校の通路は狭い」「段差がある」と、自分の学校を思い描きながら積極的に発言していました。李さんからは、段差がない所を通るようにするだけでなく、段ボール等を使って段差をなくすようにすることもできることやバリアフリーの視点についての説明があり、一つのケースからいろんな事柄を学ぶことができました。

最後に、李さんから、「災害時にはみんなが助け合える仕組みを作ることが大切で、それは『助ける』ということを超えて、『お互い様』という気持ちで支え合うということになる」ということが伝えられました。また、災害時に支えあうことができるためには、日常の活動がそのまま生かされることを話され、大切なポイントを皆で共有することができました。

高校生が積極的に発言してくれました

炊き出し訓練も兼ねて、皆で豚汁とおにぎりを美味しく食べました

ボランティア募集情報

春休み期間中のボランティア

本会が実施する障がい児日中一時支援事業で、子どもたちと一緒に遊んでいただける方を募集しています。

日　時	平成２７年３月２１日（土）～平成２７年４月４日（土） ８時３０分～１７時　※日曜日は除きます。 ※ご都合の良い時間帯だけで構いません。
場　所	嘉麻北日中一時支援事業所（嘉麻市鴨生 339） 嘉麻南日中一時支援事業所（嘉麻市上山田 502-6 山田ふれあいハウス内）
内　容	障がいをもつ子どもたちの遊び相手、宿題の補助など
備　考	動きやすい服装や時間帯によってはお弁当、飲み物をご準備ください。

福岡県身体障害者体育大会のサポート

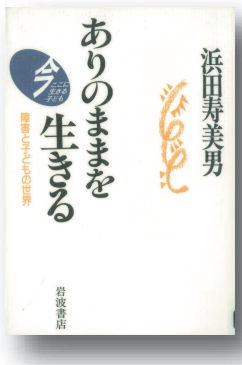
第53回福岡県身体障害者体育大会において、選手のサポートをしていただける方を募集しています。

日　　時	平成２７年４月２６日（日）８時～１６時（雨天決行）
場　　所	博多の森陸上競技場　クローバープラザ・アリーナ棟
活動内容	視覚及び聴覚障がいをもつ方の誘導、車いすの方の補助等
募集人数	２～３名
募集締切	４月１５日（水）
備　　考	当日は動きやすい服装でお越しください。現地まで、バスでの送迎があります。また、昼食は主催者側で準備します。

お問い合わせ・お申し込み先：かまボランティア・市民活動センター　☎ 0948-42-0751

今月の一冊

ありのままを生きる
～障害と子どもの世界～



編　著／浜田寿美男（はまだ すみお）
出版社／岩波書店

この本は、まず最初に筆者が勤務する大学のゼミで出会った、たかし君のことについて描かれています。自閉症のたかし君は、ゼミが始まる前に必ず出席簿とボールペンを用意して、やってくる学生一人ひとりに「サイフ見せて下さい」と言うなど、いろんなこだわりがあり、初めはみんな戸惑います。しかし長く付き合いなじんでくると、彼なしではゼミが成り立たないような気になってきます。

著者はこの出会いから、自閉症をもつたかし君を「障害」「個性」と呼ぶのではなく、「文化」として捉えることができないかと投げかけ、豊かな異文化接触について考察されます。文化には優劣等なく、対等で、それぞれの生きるかたちをみんなが認め合えば交換の世界をつくりあげることができるという内容を読み進めていくと、とても明るく前向きな気持ちになり、「こんな世界になったらいいな」と心惹かれました。そして、本来、多様な生きるかたちの交歓がうまれるはずの学校では、障害をもつ子のクラスを分けるなど、異文化の接触ができないような環境にあることを問題視されており、学校という場の意味を考えなければならないと感じました。

また、「ありのままを生きる」とは、丸裸で生きることではなく、その人のありのままにふさわしい生活世界がその人を囲んでいるということが書かれています。その言葉から、私が毎日生活している世界はどうなのかを見つめなおすことができました。「ありのままを生きる」という言葉自体はよく聞きますが、このことの意味を改めて深く考えることができた一冊です。

（みぞくち）

No. 96 炭鉱（ヤマ）の記憶

写真は、三井山野炭鉱漆生坑で採れた石炭です。丸石と呼ばれるこの石炭は、高さが45㎝ほどあります。

所有している田中義文さん（84歳　屏在住）は、昭和38年頃から閉山までのおよそ10年間、坑内に設置された木枠の保守などを行う仕繰夫（しくりふ）として働いていました。丸石を見つけたのは働き始めて、5、6年経った頃でした。当時の漆生坑は採掘量も安定していて、「あと50年は大丈夫」と言われていた頃でしたが、田中さんは「これ以上珍しいものとは一生かかっても出会えない」と思って持ち帰りました。

それから数年経った昭和48年に漆生坑の閉山が決まりました。田中さんは、驚きや不安、寂しさなどいろいろな気持ちを抱えながら、坑道を塞いでいく作業を最後まで担い、炭鉱マンとしての生活に幕を下ろしました。「まさかあんなにあっけなく閉山になるとは思いもせんやったもんね」と当時を振り返り、「こんな珍しい石は、どれだけ頑張ってももう掘れんくなったってことよ」と話します。

田中さんの自宅には、趣味の骨董品の数々が並んでいますが、その中央にどっしりと構えています。

炭鉱時代の懐かしい写真や思い出などを募集しています。嘉麻市社会福祉協議会までご連絡いただければ幸いです。TEL 0948（42）0751

ご協力ください　地域支えあい事業

地域支えあい事業は、市民の方が抱える悩みや困りごとを同じ市民の方の協力によって、解決していく「助け合い」の活動です。

最近は、電球の交換や薬とり、ゴミ出しなどのちょっとした困りごとに関する相談や、様々な理由で介護保険のサービスを利用できない方からの相談が寄せられています。

特技や経験を生かしたり、必要としない活動など、様々なものがありますので、ぜひご協力ください。

なお、協力していただける方には、サービス内容によって、協力手数料をお支払いいたします。詳しい内容については、下記までお問い合わせください。

【お申し込み・お問い合わせ先】

嘉麻市社会福祉協議会　☎ 0948-42-0751
Email：tiiki@kama.syakyo.com

山田ふれあいハウス 閉館時間変更のお知らせ

平成27年4月1日(水)から10月31日(土)まで閉館時間が下記のとおり変更となります。

閉館時間　午後7時

子育てリユースセンターの受け付けは午後5時までです。

お問い合わせ先
山田ふれあいハウス
嘉麻市上山田502番地6
TEL:0948-52-1847

かまっぴ合併号（No.11～20）発行しました

子育てグループかまっぴと一緒に作成した情報紙「こども目線♡かまっぴ♡」の11号～20号までをまとめた冊子を発行しました。

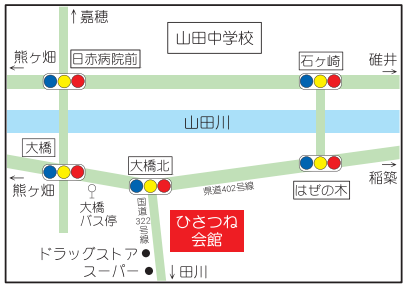
今までの特集記事やレシピ、出産体験記などが掲載されていますので、ぜひご覧ください。

また、下記ホームページからもダウンロードできます。 http://kama.syakyo.com

冊子配布場所：社協事務局・山田ふれあいハウス

ひさつね会館　嘉麻市上山田971-4 ☎52-0758　指定葬祭場紹介

ひさつね会館では、経験豊かなスタッフが誠心誠意真心を込めて、故人の旅立ちのお手伝いをさせていただいております。お客様のご予算に合わせて適切なプランを提供いたします。その他事前相談も承っておりますので、お気軽にお問い合わせください。



葬儀申込み時に、「嘉麻市社会福祉協議会の指定でお願いします」とお伝えください。葬儀にかかる費用の一部について割引を受けることができます。

嘉麻市社会福祉協議会指定葬祭場は、ひさつね会館を含め、市内に8カ所あります。

いすや会館	☎57-4444	セレモニーホールおおつか	☎52-1212
かほ葬祭　あじさい会館	☎62-5566	善光会館　稲築会場	☎83-5000
おかむら葬祭　岡村会館	☎42-4420	飛鳥会館　南斎場	☎(0120) 42-2241
きど葬祭やまさ碓井斎場	☎62-4499		

みなさまの善意、心より厚くお礼申し上げます。

寄附・香典返し

1月1日～1月31日受付分

●香典返し

【漆生本村】
親族 野見山 勝眞 様
故 野見山 重美 様

【西岩崎】
親族 永田 ひとみ 様
故 永田 一義 様

【飯田】
親族 長谷 一成 様
故 長谷 玉子 様

【上臼井下】
親族 松浦 鏡子 様
故 松浦 シヅ子 様

【井土】
親族 萩尾 ヒサヱ 様
故 萩尾 博 様

【中央】
親族 佐野 真寿美 様
故 佐野 究 様

【中山田下】
親族 前田 幸利 様
故 前田 ヨシヱ 様

【立石】
親族 坂田 シカヱ 様
故 坂田 満 様

【大隈】
親族 武田 清人 様
故 武田 重富 様

【中益】
親族 畠中 由美 様
故 大里 利章 様

【上西郷】
親族 岡部 トヨコ 様
故 岡部 登 様
親族 野見山 秀一 様
故 野見山 ツタヨ 様

【芥田】
親族 佐土島 サツ子 様
故 佐土島 赫身 様

【桑野】
親族 江藤 栄一郎 様
故 江藤 久子 様
親族 岸 妙子 様
故 岸 藤生 様

【桂川町】
親族 竹島 信江 様
故 竹島 寿男 様

【一般寄附】
三菱第二 松尾みなみ 様
嘉穂の名水愛好者一同 様

【子育てリユース】
漆生本村 匿名 様
山野第一 鬼塚かよ子 様
鴨生北町 服部 陽子 様
笹原 佐藤 有香 様
ゆうひが丘 馬場万里亜 様
飯塚市 笛田 和美 様
飯塚市 盛 啓子 様
飯塚市 廣瀬 陽子 様

【アルミ缶】
漆生本村 匿名 様
漆生本村 松熊 彩香 様
漆生本村 松熊 涼太 様
漆生南部
漆生南部 西田 幸子 様
漆生南部 市原登志彦 様
漆生南部 西岡 聖 様
樋渡 大谷 直美 様
鴨生第一 伊藤喜代益 様
鴨生第一 花村 誠市 様
漆生東 匿名 様
銭代坊 匿名 様
枝坂 森 章枝 様
鴨生北町 矢野きさ子 様
上臼井下 匿名 様
天神 島田 睦男 様
中央 明石 睦則 様
中山田上 吉塚 戊 様
立石 矢野 千恵 様
上西郷 山口 春雄 様
芥田 大野スマ子 様
田中茶舗
嘉麻市身体障害者福祉協会 稲築支部 様
石ヶ崎シニアクラブ 様

【リングプル】
漆生中央 岡山 文子 様
漆生中央 田中茶舗 様
山野第二 中原 日枝 様
山野第二 古賀 絹江 様
下臼井西 小川 陽生 様
下臼井西 小川 晄生 様
下宮 三好 邦央 様
木城 大場 一博 様
大橋 姉川 亮太 様
立石 匿名 様
石ヶ崎 國武美千代 様
古河 甲斐 良子 様
芥田 大野スマ子 様
グランドベルズ飯塚
上山田小学校 様
石ヶ崎シニアクラブ 様

【古切手】
樋渡 大谷 直美 様
鴨生第一 伊藤喜代益 様
木城 大塚 静 様
グランドベルズ飯塚 様
嘉麻市役所税務課 様
教育ナビゲーション㈱ 様
JAふくおか嘉穂南部グリーンセンター 様

【使用済テレカ】
木城 大塚 静 様

【アルミ】
古河 塚原 京子 様

あなたの会費が、社協の地域活動を支えています

会員として、次の方々にご加入いただきました。
（敬称を省略させていただきます）

1月1日～1月31日受付分

〈漆生中央〉中央七組（三口）
〈鴨生第一〉添田初代、稲富絵梨香
〈鴨生第二〉井上緑
〈ゆうひが丘〉小野マリ、古賀利男
〈新原〉菊池昌洋、吉田美代子、奈須キヨ子、岡本晃、水江元子、中山和子、谷岡福生、高木満枝、美根福一、美根信子、内山敏義、山本茂子、岡本璋博、川波ハルヨ、飯川春生、秋澤城浩、酒井照正、石倉幹代、坂本留里子
〈石ヶ崎〉仲道輝子、江藤友喜、古賀道人、岩田順一、山田信之

4月の総合相談

法律相談は予約が必要です。先着順となっていますので、お早めにお申し込みください。

嘉麻市社会福祉協議会
☎0948-42-0751

法律相談

と　き：4月2日（木）
13：00～16：00
ところ：山田ふれあいハウス

と　き：4月16日（木）
13：00～16：00
ところ：稲築住民センター

心配ごと相談

と　き：4月8日（水）
13：00～15：00
ところ：稲築住民センター

と　き：4月22日（水）
13：00～15：00
ところ：稲築住民センター

ふるさとへの手紙 No.109

神奈川県
横浜市在住
石川えりこさん
山野出身

「ぼた山であそんだころ」

ふるさとに住んでいたのは23歳まででした。福岡を離れて生きている年数の方がはるかに超えてしまいました。亡くなった父と帰省した折、車で出掛けるとよく「地元なのに道を知らない」と笑われたものです。考えてみると23年間の殆どは歩くか自転車かバスに乗るかのいずれかでした。

ふるさとの炭坑を題材に2013年10月に東京で「炭坑のある街でそだった」というテーマで個展を開きました。2014年3月それらの絵を中心に「ぼた山であそんだころ」という絵本を福音館書店より出版いたしました。

この絵を描きながら私の心の中に繰り返し繰り返し聞こえてくるのは「何にもないところだったけど無いものいがい　何でもあった」という言葉でした。鉛筆を持ち始めると思い出す炭坑や通学路や友だちや空や雲は自然は何の取材もしなくても　子どもの頃の視点の私に戻してくれました。

小学生から高校生の時までずっと続いた秘密がありました。一人で帰る学校から歩いて帰る道をいつもいつも変えていました。遠回りして山野第二の裏道を帰ったり高校から鴨生へ向かい白門の土手を歩いたり知らない裏道をいくつもいくつも　見つけていました。赤毛のアンを気取ってこっそり名前もつけていました。土手や線路や道の脇に生えている草花を見たりカエルや昆虫を見つけるのも楽しみでした。小さな陥落の池の色が一つ一つちがうのを見るのも楽しみでした。

一人で歩き帰りながら　発見したり想像したりしていた時間が「何にもないところだったけど無いものいがい　何でもあった」という言葉に続いたのだと思います。この秘密の帰り道に見つけたものが今の私の絵の中で動きだし「ふるさと」を語りかけてくれます。

コラム交差点

平成26年度 高校生災害ボランティアサポーター養成研修会に参加して

稲築志耕館高校 3年次5組 渋田（しぶた） 愛（あい）

私は今回、災害ボランティアの研修会に参加して様々なボランティアがあるということを知りました。例えば、助けると言っても自分で助ける、近くの人に助けてもらう、みんなが助け合える仕組みを作る、その人が自分で助けられるように工夫するなどの多様なボランティアを行うことが出来ます。

また、私達は日々災害と隣り合わせの中で生活していることを知りました。大雨が降って川の水が溢れるのに三十分もかからないということにはびっくりしました。

最後にグループワークをして災害が起こった時はその時の状況に合わせて、臨機応変に対応することが大切だと学びました。

私は将来、看護師になりたいと思っています。災害はこれから関わっていく内容なので今回学んだことを活かしていきたいです。

嘉穂東高校 2年5組 中西（なかにし） 由梨香（ゆりか）

私は、今回の研修会で災害時のボランティア活動や、避難所での生活の大変さを学びました。特に印象に残ったのは、李さんの災害救援についての講義です。災害時に行うボランティアは様々で、がれきの片付けや炊き出しなどの目に見えることだけではないことを知りました。被災された方々は目には見えない不安を抱えていて、それを取り除くには話し相手になるなど、精神的な面での支援が欠かせないということです。そして、こういった支援は、地域外からの大人よりも、地域内の高校生にこそできることだということも知りました。

私は、今回、これらのことを学び、日頃から地域の方々と交流することが大事だと思いました。

嘉穂高校 1年5組 伊藤（いとう） 蓮（れん）

私は災害が発生した時にどのようなことが起こるのか、どのような対処をすればいいのかを学ぶ講習会に参加しました。

まず最初に雨で川が増水する様子を動画で見ました。大雨のときには十分間で水面が3メートルも上昇し、町が水浸しになり移動や救助活動が困難になっていました。また、避難所での生活ではペットの居場所やけが、食料の分け方など多くの問題があり、どうすればみんなが快適に過ごせるかをグループで話し合いました。

この講習会に参加したことで多くの人の意見に触れることができました。その中には自分が思いつかないようなものもあり、とても勉強になりました。もしもこの福岡で災害があった時には今回得た知識を使いボランティア活動などで役に立ちたいと思います。

★編集後記★

3ヶ月続けて髙石伸人さんから寄稿をいただき、毎回はっと気づかされることがありました。今回は、遠い人々のことを他人事として考えている自分に気づき、邦人殺人事件が頭をよぎりました。生きやすさとつながっている重みをかみしめました。（きはら）

災害ボランティアサポーター養成研修会では、高校生が積極的に発言したり気づきを提案していて、刺激を受けました。一日一緒に学ぶことができ、「勉強になりました」と笑顔で話してくれて嬉しかったです。（みぞくち）

口春行政区の支えあいの仕組み作りに関わらせていただいています。打ち合わせの中では、みなさんの地域への熱い想いがビシビシと伝わってきます。その想いをカタチにしていくことができればいいなと思っています。（たけがわ）

「今月のえがお」の取材では、日常生活の中から楽しみを見つけ一日一日を大切に過ごすことの大切さを教えていただきました。はつらつとした笑顔から、元気をたくさんもらいました。（ながの）

日々の活動や色々な情報を載せているブログを「いつも読んでる、愛読者なんよ」と言ってくださる方がいて、とても嬉しかったです。ブログは、本会ホームページ「嘉麻市社協の日記」で見ることができます(*^_^*)（かじ）

社協だよりクイズに応募のあった方からの感想を載せさせていただいています。皆さん全員を紹介できませんが、「いつも楽しみにしてます」という言葉にとても嬉しい気持ちになりました。（ふかがわ）